

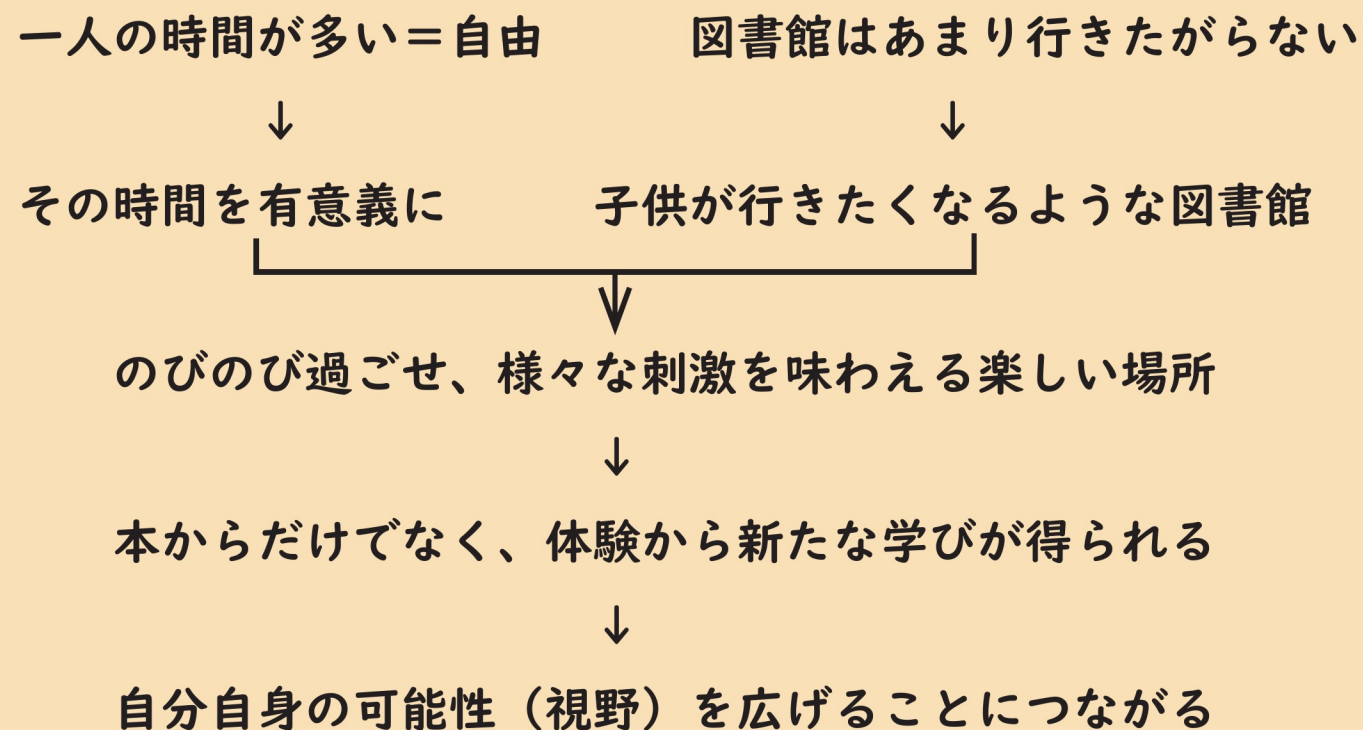
こどもの家 ～第3の居場所となる図書館～

○岸和田市を捉える

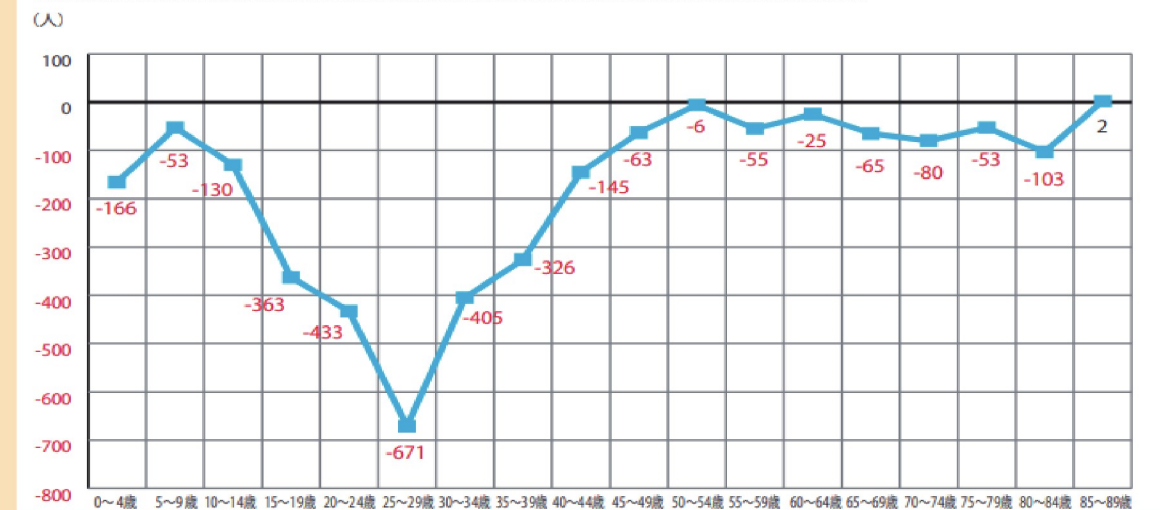
岸和田市は子供について、問題を抱えている。全国的に見ても児童数が多く、待機児童という問題に直面している。岸和田市全体でも人口減少が続いており、（直近5年で3パーセント減）その中でも子育て世代（20～30歳）の減少が顕著である。調査では、子育て世代の転出の理由の上位に「子育て環境」「治安」「教育」が入っている。さらには、彼らのうちの4割が「住み心地が悪い」と答えており、それが原因となって移住者の減少にもつながっている。つまり、子育て世代の減少だけでなく、彼らの移住意欲の低さも深刻な問題であるといえる。

○コンセプト

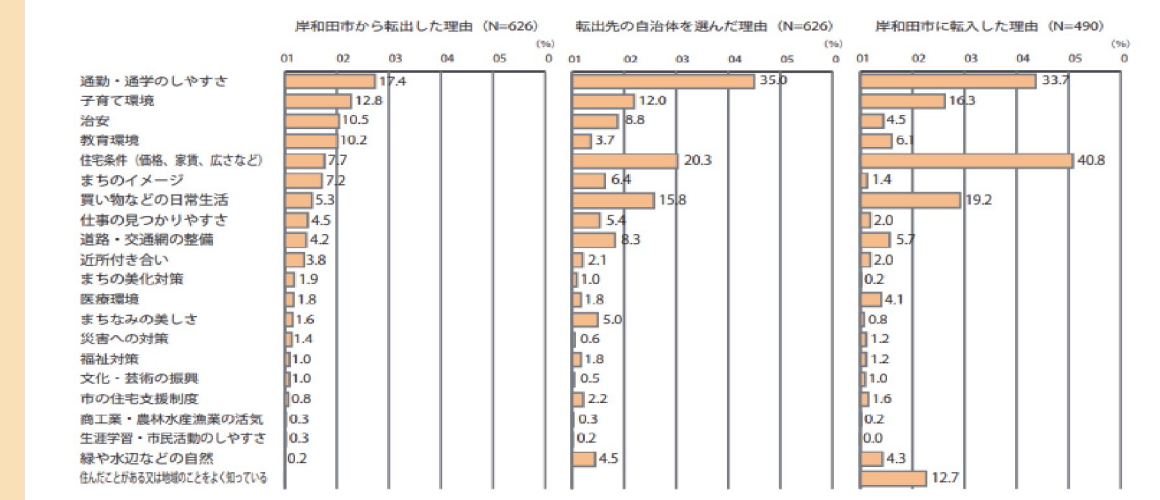
「こども」から連想される一般的にはマイナスとされる要素（「待機児童」「共働き」「片親」「放課後児童の遊び場」）を「プラス」の要素へと変換させることを最大の目的とする。



岸和田市 年代別社会増減の推移（2010年→2015年）



岸和田市から転出した理由



岸和田市の「こども」という問題を解決しながらも、図書館との複合施設にすることによって「こども」達自身にも相乗効果の生まれるような設計とする。

